

1 自己評価及び外部評価結果

(グループホーム あすなろ窪田)

事業所番号	0690400080		
法人名	あすなろの会		
事業所名	グループホームあすなろ窪田		
所在地	山形県米沢市窪田町窪田1421-1		
自己評価作成日	平成 21年 8月 18日	開設年月日	平成 21年 6月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームで生活している皆さん、ご家族、職員、それぞれが自分の人生の一部を共に過していることを忘れずにいたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家を改造して、犬を飼っている非常に家庭的な雰囲気を持った事業所である。利用者の生活を大事にしようとする工夫が、管理者や職員の対応に現れている。食事の時も利用者同士が声をかけ合い、買い物や、掃除、洗濯の片付けも利用者が家庭内の一員としての役割を演じている。そんな温かみを持った事業所である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19-6-2F		
訪問調査日	平成 21年 9月 16日	評価結果決定日	平成 21年 11月 2日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着というものを入れた理念への見直しはまだ出来なかった。しかし、少しずつではあるが事業所の地域やその人のもとの地域との係わりが増えてきた。	職員全員で「グループホームとは」といったテーマを掘り下げて話し合い、日常のケアについて意見の統一を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	その人にとっての地域という視点では、職員皆で意識して過ごせた。事業所としては、近所の魚屋に買いに行ったり、配達してもらったり少しずつ繋がりをもつようにしている。	近所の魚屋さんや美容院、コンビニに出かけたり配達してもらった時などに、利用者と話をし、少しでも地域とのつながりを作るよう努力がされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	6月からNPOになった事もあり、今後地域の方へ貢献出来るようにしたい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催回数が少ないのと参加者が少ない。介護保険法の改定や事業所の法人変更の説明が主だった。	概ね2ヶ月に1回開催するようにしている。参加者は米沢市職員、民生委員、法人の理事、居宅の介護支援専門員で法改正や、事業所の報告などを行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	消防や行政と法改正などで話す機会が多かった。今後も連携していきたい。	生活保護受給の関係もあり、市の職員とは相談し合える関係が出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	危険防止のために網をしていた事があったが、今ははずしている。	以前は外に放尿、排便の為に窓に網をしていたこともあったが、職員との話し合いをもとにケアの見直しを行い、利用者態度も改善され、現在は網をはずしている。玄関にも夜間以外は施錠を行ってはいない。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会はもてなかったが、利用者の外泊後など体調チェック。不審な点がある場合は市へ相談など行っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が作れなかった。今後必要と思われる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法改正、法人変更があったため、書面や運営推進会議での説明に加え、希望があった方には個々に話をしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の話をスタッフが聴くようにしている。外部者として介護相談員の受入をしている。しかし、運営に反映されるまでには至っていない。	介護相談員を受け入れている。家族からの意見も言いやすいような雰囲気は作られているが、現状は家族からの意見はあまりない。報告や連絡は丁寧に行われている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会はあるが反映されないことが多い。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面の説明は受けたが理解出来るようにはなく、やりがいのある職場環境整備は出来ていない。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前よりは職員を育てる取組みを進めている。出来るだけ内部でのトレーニングをするよう管理者支持を受けている。	グループホーム協議会の交換実習に参加している、認知症の指導者研修を受講した管理者からの事業所内研修が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会の会議や交流会に参加したり、外部グループホームとの相互訪問などを行っている。また、同法人内で研修報告会などしている。	県のグループホーム協議会に参加し会議や交流会の場で情報を得ている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴、今の現状、一番何を望んでいるのかを聞く時間がなかなかもてないで入居されているのが現状であった。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの不安や要望を聞くが、ほとんどが緊急的に入居が必要な場合が多かった。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な時間はもてず、その中でもその方がグループホームの入居が必要と思われる方を受け入れている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔調理の仕事をされていた方に作り方を教えてもらいながら一緒に過ごしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も一緒に過ごしたり、ケアの相談をしたりはあまり出来なかった。今後、行事など共に考えたい。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた馴染みの関係を把握する努力が足りなかった。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	身体状況や認知症状をお互い理解できず、批難したりしているが、過剰に仲を取り持ったりせず見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し退居となった方のところにお見舞いに行ったり、亡くなられた方の家に行きお線香をあげたり一緒に行なっている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	美容室や外食へ行ったり、お風呂など本人の希望に合わせるよう努力しているが、今までの生活歴や馴染みを知る必要があった。今後はそれを踏まえたうえで思いの把握が出来るようにしたい。	職員の日々のかかわりで声掛けや表情、行動から利用者の思いを押し測ったりしている。	利用者がこれからの人生をどのように暮らしたいか等、家族を交えたアセスメントを行い、又、ユニットの職員が利用者の思いや意向を共有する為の話し合いを行い利用者により具体的な思いを把握することが、更に質の高いケアに繋がると思われる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	部屋の環境づくりなど少しずつだが出来た。今後も更に家族と協力して今までの様子など教えてもらう。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	部屋で過ごしている時間の長い人の様子をもう少し把握出来るようにしたい。本人がどこまで出来るのか、どこが出来なくなっていて、サポートが必要なのか？サポートしても難しいのであればどういった方法がいいのか考えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間の話し合いは出来ているが、家族との話し合いの時間はあまりとれなかった。	職員全員で意見交換をして、モニタリング、カンファレンスを行っている。家族とは報告で了解してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の思いに気づけるような記録に変えたり、伝達事項や個人記録に目を通してからケアに入るようにしている。それにより実践に活かすことが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人の地域資源はまだまだ把握しきれていないが、事業所の地域資源として畑や近所の魚屋に出掛けたりしている。外出の機会が増え心身の力を発揮出来るようになってきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	もともとかかりつけ医の継続をしており、状況報告書などで情報交換をしながら適切な医療を受けられるように支援している。	入居後もかかりつけ医の継続を原則としている。状況報告書を作成し、適切な医療が受けられるよう工夫がなされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいない為通院の際に相談している。同法人内の看護職員と話を増やすようにしたい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談はしているが、介護サマリーの提供など積極的にこちら側からの情報を伝えるようにしたい。入院中は家族を介して病院関係者側の情報を伝えてもらう状況が多い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からの本人や家族と重度化した場合の話は行なっていない。事業者側、家族、医療それぞれ「出来ること、出来ないこと」を話し合っていくたい。	法人の考え方と事業所の考え方が必ずしも一致していない面もあり、現在法人全体での検討を予定。	法人全体としての統一した指針を作成することが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受け、実践力を身につけていくようにしている。急変や事故発生前の段階に気づくようにしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は行っているが、身に付くまでには何度も行う必要がある。地域との協力体制も少しずつ築いていきたい。	年2回(1回は消防署参加、1回は事業所として夜間想定)の訓練が行われている。運営推進会議を通じ隣接する家の協力も得られるようになってきている。	
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のいる所での記録、申し送り、排泄の有無の話し等々しないように心掛けているが、職員間での会話でプライバシーの配慮に欠けていることがまだまだある。	事業所のケアに関する方針の第一として取り上げており、職員にも教育を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事はこちらから声を掛けて希望を聞いたり、好きなものを食べたりしている。寝る時間については本人の様子や希望を聞くように心掛けているが、こちらのペースで休まれている人もいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた常務はなくして、一人ひとりのペースに合わせられるようになってきた。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	もともと利用いた理・美容室へ行くようにしている。以前から入居していた人はホームで散髪していた人もいたが、近所の床屋さんに行ったりはじめている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に同じものを食べ、買い物から準備や片付けまで共に行なっており「一緒に食べた方がいいよね」という声もきかれる。	献立は無く、利用者と買い物に行きながら献立を考えている。調理や片付け、盛り付けも利用者が行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	画一的な栄養管理はなくし、利用者がメニューを決めることによって、一人ひとりの状態や習慣に応じたものになっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けしたり、出来なくなっている人には隣で職員も行い本人の力に合わせた支援を行なっている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	最期まで人間らしく生きる為にも最優先のケアと考え、日中はオムツなどをはずし布パンツにし、全員トイレにて排泄してもらっている。	基本的には全員オムツは使用していない。トイレでの排泄を原則としている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	人間の生理的反応に合わせ、気性時と毎食後トイレに座ってもらっている。下剤だけに頼らないように玄米やヤクルト等も取り入れている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	「入れる」から、本人が「入る」に意識が変わってきた。日中だけでなく夜も入りたい人は入るようになった。	基本的には時間、日にちの制約は設けていない。利用者は入浴したい時に入浴できるように支援している。一人で入浴可能な利用者は夜間でも入浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠する為にも日中の暮らし方や、今までの就寝時間をもっと把握できるようにする。明るさや室温は個々に合わせたり、昼夜の区別がつくように寝間着に着替えたり、薬の使用を減らしたりという取組みもしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の把握をするために、処方箋をコピーし、原本は個人毎のファイルに閉じ、コピーしたものは全職員が目を通してからファイルに閉じるようにしている。しかし、まだまだ理解を深める必要がある。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一部の人に限られるが、他利用者の誕生日に食事を作ったり、畑に行ったり、張り合いのある日々を過ごせるようになってきているが、もっと生活歴を知りたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や洗濯物干し、畑などと害へ定期的に出掛けている。しかし、自分で伝えられない方に対してはあまり支援出来なかった。季節の花を観に行ったり、足湯やお祭りに行ったりしているが、家族や地域の人々と協力しながらには至っていない。	近くの法人本部の敷地で野菜を作っている。散歩がてらに収穫に行っている。犬の散歩や洗濯干し等、自主的に行われている。季節の花を見るためドライブも時折行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方の協力を得て、お小遣い程度でも持てるようになってきている。今後は、本人がお金を持つことの大切さを職員がしっかり理解したうえで支援したい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	大切な人との繋がりへの支援への認識が出来ておらず、ほとんど取組めなかった。行事への誘いの電話をしてもらったり、かかってきた電話にも利用者が出られるように取組みたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度などは職員に合わせるのではなく利用者の快適に合わせるようにしたり、人員把握の為に貼っていた顔写真をはずし、皆で出掛けたり季節の行事のとき撮ったりした写真を貼って、居心地のよく過ごせる空間作りを進めている。	民家を改造しての事業所なので食堂や居間は家庭的な雰囲気を持っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が限られており、一人で過ごせる所はあまりない為に、趣味活動の道具を職員のみ使用する場所にあったものを事務室に移動し、共用空間とするようにした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○○様と書いた顔写真を部屋の入口に貼っていたものを木の表札に変えた。使い慣れた物や好みの物を家族と相談して、居心地よく出来るように取組んでいる段階。	部屋の中には個人個人の好みのものを持ち込み、表札も各自で張るなど居心地よく生活できるような取り組みが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かせるように、ポットを使いやすくしたり、野菜を見えるように置いたり、動線の確保の為に台所の一角にテーブルを配置した。		